

# 趣味倶楽部

## 家族揃ってボウリング情熱一家

大天工業 株式会社  
(尾張南支部)  
環境課  
西川 徐雄 さん



「最近プロボウラーが集まり『P★リーグ』が設立され、1970年代のボウリングブームを再現しようと、全日本ボウリング協会が立ち上がった」という記事を見つけたその日、これも何かのご縁だったのでしょうか、今回の趣味倶楽部の取材でボウリングが趣味という大天工業株式会社 環境課の西川徐雄氏にお話を伺うことができました。

### ボウリング歴20年

—何だかボウリング熱が徐々に上がっているように感じますが、いかがですか？

西川 確かにここ最近ではボウリング場も混んできましたね。午後9時を過ぎると3ゲーム1000円など、手ごろな価格設定で楽しめるのがいいんでしょう。私が通っているボウリング場も週末などは300レーンが満員ということもあります。

—300レーンがいっぱいですか。それは大盛況ですね。西川さんもやはり週末に練習されるんですか？

西川 私はほとんど毎日、仕事を終えてから練習に行っています。昨日も6ゲームやってきました。

—毎日ですか？それも6ゲーム…。ボウリング場ではかなり知られる存在ですね。

西川 ベースにしているボウリング場では知らない人はいないと思いますよ。

—それはすごい！ それにしても毎回6ゲームくらい練習するというのは、かなり体力と集中力を要求されそうですね。それはいつ頃から続けてらっしゃるんですか？

西川 そうですね、独身時代からですからボウリング歴は20年以上になります。

—20年以上ということは、もうベテラン！ でも、毎日ボウリングではご家族からのクレームは出ませんか？

西川 妻も一緒にやっているので大丈夫です（笑）。娘も今度プロテストを受けるんですよ。

—ボウリング家族なんですね。皆



さん一緒にの趣味ならば喜びも楽しみも倍増しそうですね。

西川 そうですね。大会なども一緒に出ていますし、賞品でいただくことが多いので、うちは家電製品も米も買ったことはありませんよ(笑)。

一家電製品やお米が賞品で手に入るなんて、それは趣味の域を超えていますね(笑)。

西川 いやいや、それだけお金もかけて練習してると言うことです。

—もちろんマイボール、マイシューズで…。

西川 はい。ボールは妻のものも合わせると20個くらい家の中にごろごろしていますよ。

—ボウリングのボールが20個ですか…。スケールが違いますね。

## ボウリングは奥の深いスポーツ

西川 ボウリングと言うのは、ボールが非常に大切なんです。レーンのオイルの塗り具合などからコースを読んで、それにあったボールを選ぶ。ボールにも、曲がるボールと曲がらないボールなど種類があるんです。それに1度コース

を読むだけではだめで、何投かするうちにレーンのオイル状態も変わってきますから、その都度ボールを替えていきます。

—ああ、だから本格的にボウリングをやっている人たちはいくつもボールを持って来ているんですね。この前もそういう人たちを見かけて、重いのに大変そうだなあって思っていました(笑)。

西川 それにボールはとても手がかかるんですよ。1週間に1度くらいは必ずボール磨きで磨かなくてはいけません。20個あると順番にやっていますから、結局いつもボールを磨いてるようです。

—ボール磨きというのは機械か何かがあるんですか？

西川 もちろん売っていますし、ボウリング場にもあるんですが、1回数千円の費用がかかります。私は洗濯機のモーターを利用して自分で作りました。

—ご自分でですか？洗濯機のモーターを利用するところもさすがエンジニアといったところですね。ところで西川さんは20年のボウリング歴と伺いましたが、教室に入ったりもなさったんですか？

西川 いえいえ、妻や娘はプロに習ったりもしていますが、私はずっと我流です。

—プロの方はやはり違うものですか？

西川 そうですね、レーンの読みが早いです。普通大会の時は始め





の10分が練習時間で、その間にレーンを読みますから、いかに早くレーンを読んで、ボールを選び、立ち位置を決めるかと言うのが大きな勝負の分かれ目にもなるわけです。

一なるほど…投げるフォームなどの技術だけではない、レーンを読む目、そして自分のフォームとの調整など、いろいろな力が要求されるスポーツなんですね。なんだかお話を伺っていると、ボウリングの奥の深さを感じます。

西川 そうですか？ 確かにボウリングは奥の深いスポーツです。それだから面白いというのも事実ですね。なかなかうまくいかないから、どんどんチャレンジしたくなるんです。

## ボウリングは生涯通じて楽しめるスポーツ

一ボウリングの大会では年齢でクラス分けをしたりするんですか？

西川 それはありません。ハンディキャップのみでクラスが分かれますから、若い人とも一緒にプレイができます。若い人に勝ったときは、やっぱり嬉しいですね。

一そういえば、先日90歳の方がテレビでボウリングをなさってい

て、見事なストライクでした。まさに生涯スポーツといった感じがします。

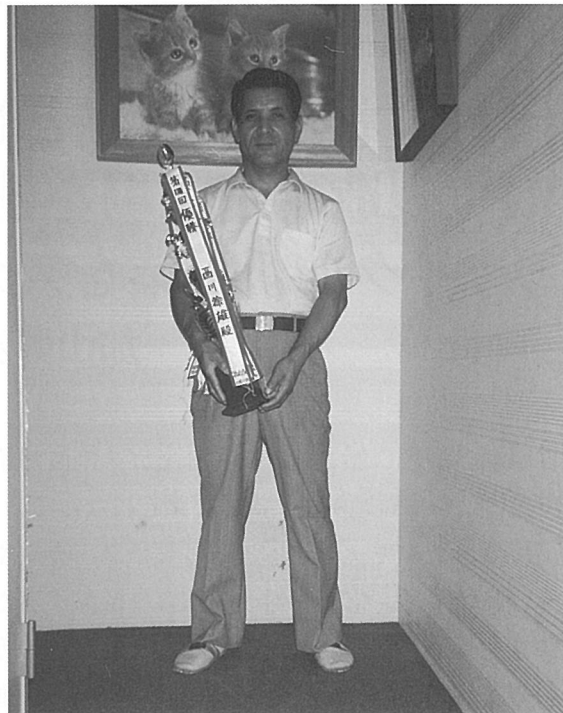
西川 そうなんです。生涯通じて楽しめるスポーツなんですよ。この楽しさを皆さんにも知ってほしいですね。真剣に取り組み始めると、なかなかやりがいのあるスポーツだということ。

一今日、このお話を伺って、いつものボウリングに対する自分の姿勢を反省しました（笑）。もっといろいろ考えないといけないですね。では、ボウリング上達の秘訣をちょっと教えていただけますか？

西川 そうですね…。やはり数をこなすことでね。一朝一夕での上達は難しいですよ。とにかく日々努力、ボウリング場に足を運ぶことです。

一あと、マイボールの準備もですよ。

西川 真剣にやろうと思ったら必要ですね。でも、どんな年代の人ともいつまでも楽しめるボウリングは本当にいいですよ。



西川氏のお話を伺っていると、ボウリングに対する情熱と愛情をととても感じた。

奥様と旅行に行く時も、必ず車にボウリングのボールをトランクに積んで出かけ、ボウリング場を見つけては夫婦でボウリング。というお二人は共通の趣味を持った素敵なご夫婦なんだろうと想像をめぐらせた。

「愛産協のボウリング大会には参加するたび入賞なので申し訳なくて、時々にはしています。」と話す西川氏、是非次回の大会にはご参加いただき、ボウリングの楽しさ、難しさを伝えるとともに、ご指導いただきたいものです。ありがとうございました。